

小学六年

国

語

解答と解説

1

問九	エ	35	問六	⑤	31	問五	と	心	ん	自	一	問一	イ	21
問十	このまま同	36	⑥	ウ	32		い	で	な	分	番	問二	i	
			問七	ウ	33		う	は	に	が	身	オ	ii	22
			マ	イ	34		こ	泣	笑	必	近	ア	iii	23
			ヨ	ヨ	35		と	い	わ	死	な	イ	iv	24
			問八	気	36		。	て	れ	で	新	問三	ウ	25
			が	つ	37			い	な	笑	人	問四	ア	26
			い	た	38			る	が	っ	に	エ	(順不同)(完答)	
								ピ	ら	て	追			
								エ	自	い	い			
								口	分	る	抜			
								と	も	姿	か			
								同	笑	は	さ			
								じ	い	、	れ			
								だ	、	み	た			
														27
														28
														29
														30

(配点)

- ①〔問二〕各2点、〔問五〕7点、〔問六〕各3点、他各5点
 ②〔問一〕各2点、他各5点
 ③④⑤各2点

計150点

		5		4		3				2	
⑥	磁石	①	相談	①	キ	①	ウ	問十	モ	問四	問一
								C	チ	利己的	1
⑦	賃金	②	競争	②	エ	③	エ	問十一	ベ	な	ウ
								イ	ー	思い	2
⑧	干害	③	常態	④	ケ	⑤	オ		シ	い	ア
									問七	問五	3
⑨	預	④	清潔	⑤	イ		ア		エ	憎まれ	エ
									問八	を	問二
⑩	納	⑤	遺族						ウ		イ
									問九		問三
									エ		自分
											なり
											の

【解説】

1 青山美智子の『遊園地ぐるぐるめ』（ポプラ社）から出題しました。

デザイン会社に勤める「私」は、最近挑戦した社内コンペで直属の後輩にあっけなく追いつかれてしまい、すっかり自信をなくしています。そんな「私」を励まそうと、友人の葵が「遊園地ぐるぐるめ（正式名称は「山中青田遊園地」）に誘ってくれました。そこで見聞きしたものを経て、「私」の気持ちが前向きに変わっていく様子を読み取りましょう。

問一

B1 具体化 比較

見ればすぐにそれとわかるはずなのに、——線①直前で葵はわざわざ「あれは、ピエロだね」と言っています。そのことに対する「うん？ そうだね」ですから、「私」は「見ればわかるのに、何を言っているのだろう？」と不思議に思っています。したがって、イが正解となります。ア「身構えている」、ウ「不思議で仕方なく」、エ「混乱している」がそれぞれ誤っています。

問二

B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。
i ピエロの見た目について描写している場面です。ピエロの右目の下に涙が描かれている様子について述べていますから、オ「くつきりと」が入ります。

ii 回転マシンから人々が降りてくる様子が描かれている場面です。直後に「カップの中であんなに翻弄されて」とあ

ることから、マシンの中にいた人たちがつかれている様子が読み取れます。したがって、ア「よろよろと」が入ります。

iii 直前の「バレリーナみたいに」や直後の「一回転した」に合わせて、イ「ぐるりと」が入ります。

問三

A2 知識 関係づけ

「食指が動かない」で、何かに対して乗り気でない、やる気にならないといった様子を表します。逆に、興味がわく、やってみようという気になる、という場合は「食指が動く」という表現になります。

問四

B2 理由 比較

「ひきつった」という言葉は「笑顔」とすんなりはつながりません。ここから、表面的には笑顔を見せていたものの、内心ではマイナスの心情を持っていた、ということがわかります。意気込んでコンペに出品した「私」にとつて、自分が選ばれなかったことが一つめ、さらには選ばれたのが自分の直属の後輩であったことが二つめのマイナスのポイントです。したがって、アとエが正解となります。イ「自信を持っている」、ウ「教え過ぎたせいで後輩に追いつかれる結果になったこと」を後悔している、オ「自分に失望している」がそれぞれ誤っています。

問五

B2 具体化 推論

指示語の指示内容を把握する問題です。ただし、指示語で直接指示されている部分だけでは説明が不足するため、よ

りくわしく説明するために必要な場所にもどつて要素を拾うことが求められます。

「それ」が直接指しているのは直前の「一番身近な新人にあっけなく追い抜かされた私が、必死で笑っている姿。葵の言うピエロ説でいえば、完全に前者だ」です。「葵の言うピエロ説」は1ページ上段から下段にかけて葵が説明しているピエロについての説のことを指しています。つまり、後輩に追い抜かされて必死に笑顔をつくっている自分が、「みんなに笑われながら自分も笑って、心で泣いている」状態だと言いたいのです。これらの要素を盛り込んでまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問六

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。辞書の意味をもとにして、文章中の意味をとらえましょう。辞書的な意味を外れたものは解答にはなりません。知らなかった言葉は辞書で調べて覚え直しておきましょう。

⑤ 「うやうやしく」は漢字で「恭しく」と書き、「恭順」「恭賀」などの熟語があります。「礼儀正しく丁寧である」という意味があります。したがって、イが正解となります。

⑥ 「まばらに」は漢字で「疎らに」と書き、「過疎」「疎開」などの熟語があります。間隔をあけることを指し、家屋や

人が点々と存在するような場合にも使われます。したがって、ウが正解となります。

問七

B1 関係づけ

ピエロの発言であることと、最後に「！」がついていることに注目しましょう。また、直後にピエロが「さっき葵にしたのと同じように、親指をぐっと突き立てる」と特別なポーズを取っていることもポイントになります。本文の最初の場面です。葵に話しかけられたピエロは、同じポーズを取りながら「ウマイヨ!」と返答しています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

B1 具体化 関係づけ

線⑧の直前に「それを聞いて」とあることに注目しましょう。直前で葵は「きつとピエロも、最初からその匙加減をわかってたわけじゃないよね。適当が適量にたどりつくまで、何回ポップコーンを作ったのかなあ」と発言しています。何度コンペに挑戦しても望む結果が出せない「私」にとって、この発言は「今後何回でも挑戦すれば、いつかうまくいく時がくるはずだ」と考え直すきっかけとなっています。これをふまえ、ピエロがポップコーンの絶妙な味にたどりついたことと「私」の仕事のことが重ね合わされている部分を探すと、本文の最後の場面で「いくつもの経験を重ねながら、気がついたら手にしているものもあるのかもしれない」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とし

ます。

問九

B1 具体化 比較

「だけど」に注目すると、回転マシンは同じ場所に降りてきたけれども、そこから降りる自分は乗る前と後で別の自分になっているように「私」には感じられた、ということがわかります。5ページ下段で「私」が考えていることをふまえると、エが正解となります。ア「自分をばかばかしいと笑い飛ばせるように感じた」、イ「以前とはまったくちがう人間に生まれ変わった」、ウ「回転マシンがすっかり好きになった」がそれぞれ誤っています。

問十

B1 具体化 関係づけ

回転マシンに乗る直前、葵と「私」はピエロにもらったポツブコーンを食べています。この場面では「私」が仕事のことを考えている描写がないので、(中略)の前までもどってみると、2ページ下段の「結局、同じことの繰り返しなのかな」から(中略)までの間で仕事のことを考えている描写が出てきます。字数や前後のつながりを考えると、「このまま同じポジションでただ同じ毎日を過ごしていく」という表現が当てはまります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 榎本博明の『自己肯定感とは高くないとダメなのか』(筑摩書房)から出題しました。

ほめて育てる教育や子育てに疑問を呈し、大人がしっかりと叱ることの大切さを訴えています。また、後半ではほめることと自己肯定感の関係が薄いことにも言及し、自己肯定感とはどのようなものかに迫っています。

問一

B1 関係づけ 比較

空らんにあてはまる言葉を考える問題です。前後の内容どうしのつながりに着目し、言葉そのものの働きと合わせてふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前には、いくら努力してもよい結果が出ない時は何とか持ち堪えて頑張るしかないということが書かれています。これに対して直後には、鍛えられていない心は折れやすい、と反対の内容が書かれています。したがって、逆接のウ「でも」が入ります。

《2》の直後に「ようだ」という言葉があります。これは《2》と呼応して、「まるでようだ」という比喩の形を作っています。したがって、ア「まるで」が入ります。

《3》の直前には、自己肯定感について世間で言われていることについて、筆者の立場からは違和感を覚えるようなものがあることが述べられています。これに対して直後にはその具体例が続いています。したがって、エ「たとえば」が入ります。

問二

B1 理由 比較

筆者は文章中で一貫してほめて育てる教育や子育てに否定的な見解を示しています。ほめて育てることは一見子どもたちによさしい立場をとることのように見えますが、筆者の意見は異なっています。――線①直後に「その子たちが将来困難に直面しても粘り強く乗り越えていけるように心を鍛えてあげようとしていない」と指摘していることから考えると、イが正解となります。ア「困難に直面しないようにするため力」、ウ「得意なものや不得意なものを自覚することができない」、エ「疑問や不満にきちんと答えようとしなない」がそれぞれ誤っています。

問三

B1 具体化 関係づけ

――線②の直後で、筆者はこの中学生の投稿について「(教師は)自分かわいさゆえに叱らなくなったのだ、といった疑念を抱いている」と説明しています。この後、叱らない親に対する学生の気持ちが列挙されていますが、これらについて筆者は10ページ上段で「自分なりの考えや価値観を体当たりでぶつけてくる親や教師を子どもたちが求めているといったこともあるのではないか」とまとめています。字数やつながりを考え、「自分なりの考えや価値観」が正解となります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四

B1 関係づけ

大人が子どもを叱らなくなった背景にあるものが③に入ります。直後に「自分かわいさゆえに叱らなくなったのだ」

とあることから「自分かわいさ」が当てはまりますが、この言葉は★より前にあります。したがって、★以降からこれと同じような内容で六字の表現を探すことになります。親が子どもを叱らなくなった例が示されている9ページ下段から10ページ上段を探すと、10ページ上段に「そこには自分のためという利己的な思いしか感じられない」という表現が見つかります。「利己的な思い」が「自分かわいさ」と同じ意味の表現になっていることを確認しておきましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五

B1 具体化 関係づけ

10ページ上段には、筆者の考える理想的な子育てとは反対の状況が示されており、この部分に「親心を込めた気概」という表現もあります。これらの内容をまとめ、筆者が親に対して「○○な子育てをすべきだ」と表明している部分を探します。9ページ下段に中学生の投稿に対するコメントとして「大人は憎まれ役を買って出て叱るべきです」と明確に表明している部分があります。

【A】の次の行に「きついことを言ったり」、【B】の三行後に「厳しく文句を言ったり」という表現があり、どちらも内容と字数の条件を満たしています。ただし、どちらも空欄に入れた場合並列の「たり」がくり返されない形になってしまふことから、答えとしてはふさわしくありません。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六

B1 具体化 関係づけ

ほめられなくても自己肯定感を高めるために必要だと筆者が考えているものを答える問題です。筆者が「ほめること」と「自己肯定感を高めること」を関連付けて考えている部分を探しましょう。10ページ下段に、ほめられればだれだって嬉しいが、ほめられるかどうかで上下してしまうようなものは自己肯定感とは言えない、という内容のことが書かれています。それに続けて「そのようにほめてもらえることでやる気になるという人は、自分の中にモチベーションを起動し維持していく心のシステムができていないのだ」と書かれています。逆に言えば、このようなシステムがあれば、ほめられなくても自己肯定感が高く保てるということになります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七

A2 知識 関係づけ

一つめ、二つめともに⑥の直前に「他人の評価（に依存する）」という表現があります。これは、他人にほめられればよい気分になり、ほめられなければ気分が上がらない様子を指しています。このことから、エ「一喜一憂」が正解となります。

問八

B1 具体化 比較

線⑦に続く部分を読み進めていくと、具体例が列举された後、11ページ下段に「それが違和感の正体だ」という表現が見つかります。指示語をたどって少しもどってみると、「ほめてもらえれば高まるけれどもほめてもらえないと低下して

しまうようなものを自己肯定感と呼んでいいものだろうか」という疑問が示されています。ここから、筆者は自己肯定感とは他人の影響をあまり受けず安定的に自分の中にあるものだと考えていることがわかります。したがって、ウが正解となります。ア「自己肯定感を利用しようとする」、イ「自己肯定感も一緒に下がってしまう」、エ「前向きに受け止めようとする」ことによって自己肯定感が高まっていくがそれぞれ誤っています。

問九

B1 具体化 比較

まず、「そんなもの」という指示語の指示内容を確認しておきましょう。この指示語は「ネガティブな出来事や状況になれば容易に低下してしまう」ような自己肯定感のことを指しています。自己肯定感とはネガティブな出来事や状況において自力で前向きになるために必要なものですから、そのような出来事や状況とともに下がってしまったては力を発揮することができません。したがってエが正解となります。ア「上昇してしまう可能性が高い」、イ「役に立たないおそれがある」、ウ「悪化させてしまう危険性がある」がそれぞれ誤っています。

問十

B1 関係づけ 比較

抜けている文をもとの場所にもどす問題です。指示語や接続語、キーワードに注目して、抜けている文と内容的に近い内容が書かれている部分を探しましょう。また、実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。

「頼れない」という表現に注目すると、若者が親に頼るとい

う関係について述べた部分と関連していることがわかります。また、「そうでないと」という指示語が指している内容は、頼ることと直結しているはずですから、「堂々としている」「しっかりしている」という様子であると考えられます。これらのヒントから、【C】の後に脱文だつぶんが戻ることがわかります。

問十一 B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢せんたくしを答える問題です。選択肢の内容と本文のどの部分が対応しているのかを考え、必ず本文と照らし合わせて正誤を検討しましょう。

イの内容は、10ページ上段で説明されていることと一致します。アについては対応する表現が本文にありません。ウは「自己肯定感が育ちやすいように」が誤っています。エについては、教育をしている側の真意が子どもに伝わるかどうかということについての言及がないため誤りです。

3 A1 知識 比較

反対の意味のことわざ・慣用句について答える問題です。ことわざや慣用句については、同じ意味のもの、反対の意味のものなどを組み合わせて覚えておくようにしましょう。

4 A2 知識 比較

□にあてはまる擬態語ぎたいを答える問題です。例文の内容をよく読んで、意味のうえでふさわしい表現を当てはめて答えましょう。